

目次

| | |
|--|------|
| はじめに | 1 |
| I. 研究成果概要 | 5 |
| II. 全体シンポジウム | 25 |
| 1) 哲学の国際化は可能か | |
| 2) グローバルな現実に向きあう哲学 | |
| 3) 国際化とは何をすることなのか | |
| 4) 22世紀の世界哲学に向けて | |
| III. 各ユニットの活動 | 207 |
| 1) 第1ユニット 世界哲学の日本からの発信 | 208 |
| (1) 日本哲学研究 | |
| (2) 国際井上円了学会の創設と活動 | |
| (3) 韓国・東国大学校との共同研究 | |
| 2) 第2ユニット 世界哲学の方法論研究 | 377 |
| (1) 「方法」の理論的探究とその技法 (WEB 国際会議) | |
| (2) 方法論の適用 (ポスト福島の哲学・〈法〉概念の研究・個別の連続研究会) | |
| 3) 第3ユニット 多文化共生の実現 | 615 |
| (1) 宗教間共生の可能性とその展開 (宗教間の共生・精神と身体 の共生・自然との共生・伝統と現代との共生・海外現地調査) | |
| (2) イランとの学術交流 | |
| IV. 論文・訳註・書評 | 775 |
| V. 別冊 | 1523 |
| 1) 第1ユニット | 1524 |
| (1) 『国際井上円了研究』1号 | |
| (2) 『国際井上円了研究』2号 | |
| (3) 『国際井上円了研究』3号 | |
| (4) 『国際井上円了研究』4号 | |
| 2) 第2ユニット | 2389 |
| (1) 『国際哲学研究』別冊1「ポスト福島の哲学」 | |
| (2) 『国際哲学研究』別冊2「〈法〉概念の時間と空間」 | |
| (3) 『国際哲学研究』別冊4「〈法〉の転移と変容」 | |
| (4) 『国際哲学研究』別冊8「デカルトにおける形而上学と道徳 —村上勝三の仕事を引き受けて—」 | |
| 3) 第3ユニット | 2791 |
| (1) 『国際哲学研究』別冊3「共生の哲学に向けて—イスラームとの対話—」 | |
| (2) 『国際哲学研究』別冊5「哲学と宗教—シェリング Weltalter を基盤として—」 | |
| (3) 『国際哲学研究』別冊6「共生の哲学に向けて—宗教間の共生の実態と課題—」 | |
| (4) 『国際哲学研究』別冊7「共生の哲学に向けて —イラン・イスラームとの対話(2)—」 | |
| VI. 一般刊行物 | 3303 |